

ほっ

図書部



2号

平成30(2018)年10月
船橋市西図書館 YA 担当

新刊紹介

YA コーナーに新しく入った本です。
今回もいろいろなジャンルの本が揃ってます！



『南西の風やや強く』

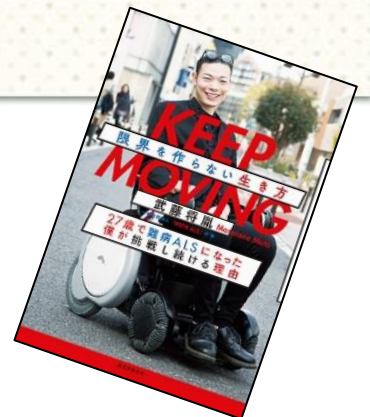
吉野万理子 あすなろ書房 YF304

他人に勝たないと一流になれないと思わされていた伊吹が、気の合わないクラスメイトだと思っていた多朗に、ある夜「今からいけるところまで歩こうぜ」って言われたのがはじまり。その後の人生変わる出会いってあるのかも。男子男子ときどき女子の青春ストーリー。読み進むごとにじんわりきます。
★ ★ ★

『限界を作らない生き方』

武藤将胤 誠文堂新光社 Y916ケ

武藤さんは27歳の時、難病 ALS と診断されました。でもこれは闘病記…ではありません。眼だけでスマートフォンを操作して写真を撮ったり、機器を操作してDJをやったり。どんどん新しいことに挑戦し続ける武藤さんから、若い皆さんに向けてのメッセージがつまった本です。



『神さまがくれた漢字たち』

山本史也 新曜社 Y821 カ

昔々、3300年ほど前に創られた漢字は、甲骨文字と呼ばれ、神さまからのお告げを受けるためのものでした。絵から形作られた象形文字の漢字は、その成り立ちに多くの物語を秘めています。神秘の漢字の世界に少しだけ触れてみませんか。



<特集>

あなたは

犬派?

猫派?



～犬・猫の本特集～

『夢 - YUMENOSUKE - 』佐藤美由紀 双葉社 Y645コ

殺処分寸前だったところを、災害救助犬候補として引き取られた雑種犬、夢之丞。臆病で、なかなか人にも懐かなかったけど、災害現場では別人（別犬？）のように堂々と任務をこなしました。人間に殺されかけた夢之丞が、人間を助けて生きている。夢之丞をきっかけに、犬たちの命、保護犬の存在について考えてみてください。



『サバイバーズ1 孤独の犬』

エリン・ハンター 作/井上里 訳 小峰書店 Y933ハ

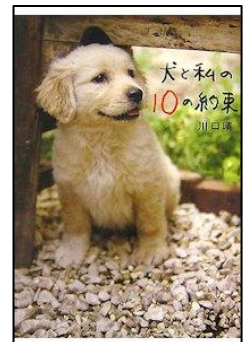
大地のうなりによって、世界は一変。建物は崩れ、水も食料もなくなりました。街で生きてきた<孤独の犬>ラッキーは、食べ物を探す中で、群れを作る犬や、人間に飼われていた犬に出会います。自分と違う世界で生きてきた犬たちに戸惑いながらも、ラッキーは生き延びる道を探していきます。シリーズで6巻まで出ているので、ぜひ続けて読んでみてください。



『犬と私の10の約束』

川口晴 文藝春秋 YFカハ

医者で仕事人間の父と、いつも笑顔で明るい母と一緒に暮らすあかり。中学生になったあかりの元に、子犬のソックスがやってきます。ソックスを飼い始める時に母から教えられた、10の約束。あかりは大人になってから、その約束を思い出すのです。あかりと、あかりを見守り続けた家族の物語です。



～まだまだあります！犬の本～

・『ロング・ドッグ・バイ』霞流一 理論社 YFカリ

→ある日突然、公園に植えられていたゴボウ。探偵犬アローは、この謎を解くことができるのか？

・『ハーネスをはずして 北海道盲導犬協会の老犬ホームのこと』辻恵子 あすなる書房 Y369ハ

→引退した盲導犬たちの家で働く著者が、犬たちの様子や自身の仕事について書いた本です。

★新刊『イヌがおしえるイヌの本音』井原亮 監修/みずしな孝之 イラスト 朝日新聞出版 Y645イ

→犬たちが日々抱えている悩みに、チワワ先生が答えます！飼い主さんへのアドバイスもあり。

★10月～12月の特集展示 「ファンタジー」★

西図書館 YA コーナーでは、コルクボードを使って、3か月ごとにテーマを変えて本の特集展示をしています。西図書館に来た時には、ぜひのぞいてみてください！



『三毛猫ホームズの秋』 赤川次郎 光文社 YFアシ

優しい刑事・片山と、その妹・晴美、晴美に惚れている石津刑事、それから猫のホームズ。警視庁の運動会に参加していた彼らに、護送中の殺人犯が逃走したとの知らせが入ります。運動会では、競技中のダルマの中から死体が見つかり…。『三毛猫ホームズの運動会』等、秋のおはなし4編を収録した短編集です。



『猫語の教科書』

ポール・ギャリコ 著/灰島かり 訳 筑摩書房 Y933 キ



ある編集者のもとに届けられたのは、猫語で書かれた文章。法則性に基づいて訳してみると、「人間の家をのっとる方法」「おいしいものを食べるには」…など、人間と暮らす猫へのアドバイスが書かれていました。まさに猫のための教科書。あなたの家の猫も、こんなことを考えながら、生活しているのかも！？



『里山の子、さっちゃん 全身マヒの猫「サチ」と仲間たち』

佐竹茉莉子 辰巳出版 Y645 サ

房総半島の真ん中あたりの里山に、カフェがあります。そこではたくさんの猫や犬が、人間と一緒に暮らしています。全身マヒの猫・さっちゃん、迷い犬だったハッピー、お母さんに見捨てられた赤ちゃん猫のライム…。みんながのびのびと生きる里山の様子を、ちょっと覗いてみませんか。



～まだまだあります！猫の本～

- ・『それでも人を信じた猫 黒猫みつきの180日』 咲セリ KADOKAWA Y645 ソ
→全身傷だらけで、病気も悪い、目も見えない。それでも明るく生きたみつきの、最後の記録です。
 - ・『ねこ会話入門』 ねこの博物館 編集 データハウス Y645 ネ
→耳がピンと立つのはどんな時？なぜ高い場所が好きなの？猫の気持ちを知るヒントが満載！
- ★新刊『猫町くんと猫と黒猫』 椋屋京介 小学館 YF ミキ
→人間に化ける力をもった猫・猫町くんは、高校生として生活する中で、人間相手の恋に落ち…！？



チーバくんの生みの親、さかざきちはるさんインタビュー

「童話の挿絵が好きで、挿絵を描く人になろうと思ったんです。」



Suica のペンギンで一躍有名になったさかざきはるさん。9/16 に西図書館で行われた「図書委員長チーバくと本にふれよう&サイン」でお話を伺いました！

10代の頃に読んでいた本は、アガサ・クリスティーやウィリアム・アイリッシュ等、海外の推理小説。また、『指輪物語』やレイ・ブラッドベリの小説等、現実にはないものを、あるように書いた作品もお好きだったそうです。他にも『ソロモンの指輪』といった、科学的な本に興味を持ち始めたのがこの頃。子どもの頃から動物がお好きだったんですね！

イラストレーターになろうと思ったのは、高校生のとき。『エルマーの冒険』や、『飛ぶ教室』、ムーミンの挿絵が好きで、挿絵を描く人になろうと思ったそうです。まず取り組んだのは、予備校に通いデザインの基礎を学ぶこと。その後美術大学に進み、専門的な知識を学びました。どんなことでもやっぱり基礎は大事ですね。

「興味のある本をたくさん読むのもいいし、人からすすめられた本を読んでみるのもいいですね。」どんな本が自分に合うかは読んでみないとわからない。きっかけがあればいろいろな本を読んでほしい、と皆さんへのメッセージをいただきました！

さかざきさんのおすすめの本、気になったらぜひ図書館に借りにきてくださいね。

～西図書館イベント情報～

- 🍎 10/13(土)～11/7(水) 西図書館ギャラリー展示「ファンタジーの運び人 角野栄子展」
- 🍎 11/3(土) 10時～、14時～ 各回先着10名
「図書館ツアー」
- 🍎 12/23(日)～12/28(金) 「年越しブックセット」

※詳しい内容は西図書館にお問い合わせください。

ホームページはこちらから↓

<https://www.lib.city.funabashi.chiba.jp/>

スマホ

ケータイ



発行 船橋市西図書館
☎ 047(431)4385

次回の発行は
平成31年1月！

